

評価結果概要表

【評価実施概要】

作成日 平成 20 年 2 月 4 日

事業所番号	2772403305	評価機関名	特定非営利活動法人
法人名	有限会社ウイズ・ケアサポート東田宮		近畿マネジメント・サポート・センタ
事業所名	グループホーム そおれⅡ	所在地	大阪市東住吉区山坂5-5-14-103
所在地	大阪府枚方市東田宮1丁目11番30 電話 072-844-0181	評価調査日	平成 20 年 2 月 1 日
		評価確定日	平成 20 年 2 月 5 日

【情報提供票より】(平成 20 年 1 月 15 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数	6 人
職員数	8 常勤 2 人	非常勤	6 人 常勤換算 5.99 人

(2) 建物概要

建物の	鉄筋	造り
構造	4 階建ての (2 階部分)	

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	6 万円	その他の経費 (月額 2 万 4 千円)		
敷金	有	10 万円		
保証金の有無 (入居一時金を含む)	有	償却の有無 無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または 1 月当たり		5 万 4 百 円	


(4) 利用者の概要 (12月22日現在)

利用者人数	6 名	男性	2 名	女性	4 名
要介護 1	1 名	要介護 2	1 名		
要介護 3	2 名	要介護 4	2 名		
要介護 5	1 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 85 才	最低	75 才	最高	92 才
(5) 協力医療機関名 こうろ歯科					
医療法人昭征会 坂野病院、さかのクリニック					

【外部評価で確認された、この事業所の特徴】

利用者、一人ひとりの過去から現在までの生活歴、想い、等の把握を職員はチームとなって聞き取り、看取りを行っている。それらの結果は東京センター方式による様式で、個人毎に記録の蓄積が出来ていて、この記録を基に3ヶ月毎のケア改善が行われている。利用者と職員との親密さが、市中の奥様同士の語らいの雰囲気となっていて、これが個人情報把握の原点となっていると思われる

重点項目①	前回評価での主な改善課題と、その後の取り組み、改善状況 (関連項目: 外部4)
	前回の評価で、入口階段付近の殺風景さを指摘されたが、その後、カラー刷りのホーム便りを壁面に張る等をして、明るい感じを与えている。又、階段横にはプランターに花を植えていた。更に、職員の研修はホーム開設以来、介護の基本は職員にありとして、昨年度に引続き、内部研修と外部研修に真剣に取り組んでいる
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	今回の自己評価票は、管理者と職員が検討、討議して作成して来た。運営者は職員の教育がホームのレベルアップに繋がるとして、当初より熱心に取り組んで来ている。開設当初よりの在籍職員の経歴が2年以上となり、大阪府主催の研修会の参加資格に適格となるので、今年度は受講を進めるよう準備しており、今後の介護レベルアップを期待している
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容、及び、それらを活かした取り組み (関連項目: 外部4、5、6)
	運営推進会議は平成18年8月11日より開催され、昨年未までに6回開催して来た。出席者は、枚方市役所の担当者、地区の自治会長、家族代表、事業者側職員等。討議の内容は、主としてホームの日常の介護状況の説明と、利用者の方々についての生活状況の経過説明等である
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7、8)
	今回の評価の家族アンケートでは、殆どのご家族は、ホームでの生活に満足しておられる。ご家族の日頃の来訪時にも、付き添って話し合っているもので、特に問題となるような記載はなかった
重点項目⑤	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	ホーム発足以来、漸く2年を経過してきたので、地元の方々との日常の挨拶だけでなく、地元の各種行事にも参加できるよう、自治会への加入も含めて検討を進めている

（ 部分は重点項目です）

 取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念に基づく運営					
1 理念と共有					
	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中で、その人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業者は地域でのホームの存在の意義を十分心得て、2年前に立ち上げたホームの運営と、地域での関係に配慮しながら運営に当たっている		
	2	○ 理念の共有と、日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、日々の引継ぎ時に経営理念の実践を、適宜に指示をしている。内部の会議、研修会において、理念の重要性を強調している		
2 地域との支えあい					
	5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等の地域活動に参加し、地域の人々と交流することに努めている	地元での交流は、現在、殆ど行われていないが、散歩などの際の挨拶程度は出来つつある	○	ホームとして、地元自治会の一員として加入を図り、地元の人々との交流を深めるようにして欲しい。保育園をはじめ幼、小、中の学校とも、接触を図って欲しい
	7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	開設初期の多忙な時期から、現在は、やや安定した運営が軌道に乗りつつあり、職員も定着しているので独自の改善計画を実施している		
	8	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について、報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスの向上に活かしている	運営推進会議は平成18年8月11日より計6回開催し、グループホーム運営の諸問題について、知ってもらってきている	○	運営推進会議を通して地元の自治会長、民生委員、婦人会、高齢者会等にも働きかけ、会議出席や地元の各種、行事への参加(清掃、防犯なども、検討して欲しい
	9	○ 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所が近隣にあるので、適宜に訪問でき、何かと相談をしている		
4 理念を実践するための体制					
	14	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び、個々にあわせた報告をしている	ご家族の来訪も多いが、年に何回か、色刷りのホーム便りを郵送している。FAXかメールの利用も可能性の一つとして検討している		
	15	○ 運営に関する家族等の意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の来訪時には苦情、意見等は貰っていないようなので、来訪時には、積極的に声かけを意識している		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	9 18	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来2年目になっているが、職員の定着性が良くなり、殆ど退職者はいない。運営者はこのことについては、最大の配慮を行っている		

5 人材の育成と支援

	10 19	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、大阪府主催の職員研修会をはじめ、必要な研修会には積極的に参加させている		
	11 20	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、開設時の多忙から脱しつつあるので、運営推進会議等で情報を得て、他の事業者との交流を図りたいと希望している		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1 相談から利用に至るまでの関係づくりと、その対応

	12 26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して納得した上で、サービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人、家族に無理強いせず、ホームでの生活の実情を見てもらったり、説明をしたりしている		
--	-------	--	---	--	--

2 新たな関係づくりと、これまでの関係継続への支援

	13 27	○ 本人と共に過ごし、支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご本人の出来る能力内で、生活を楽しんでもらっている		
--	-------	---	---------------------------	--	--

III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1 一人ひとりの把握

	14 33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護の基本となるので、職員はチーム力で、ご本人の出来る能力や癖などの把握に努めている		
--	-------	---	--	--	--

2 本人がより良く暮らしを続けるための介護計画の作成と、見直し

	15 36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員のチーム力で利用者さんの過去の過去、現在の生活、性格、癖などの把握に努めている。この結果を、職員同士の検討会でまとめて、記録している。これが個人毎のケア改善の基になっている		
--	-------	--	--	--	--

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	利用者の過去から入居している現在までの調査、聞き取り、看取りの記録が、東京センター方式を利用して個人毎にファイルされている。この記録を、ケアの判断の基本とし、職員の討議を経て、計画変更を実施している		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や、家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	枚方市長尾に所在する同一法人のホームとの合同で、利用者への支援活動を行っている		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られた、かかりつけ医と、事業所の関係を築きながら、適切な治療を受けられるように支援している	利用者全員が、内科のかかりつけ医師の診察を受けており、急な往診にも対応してもらっている。		
19	47	○ 重度化や週末期に向けた方針の共有 重度化した場合や、終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびに、かかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業者は、入居者の年数が長くなることで、当然の結果として予測されるとし、ホームとしての対応を準備、検討している。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○ プライバシー確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員に個人情報的重要性を、繰り返し伝えている。退職時にも守秘の誓約を徹底している。		
21	52	○ 日々の、その人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員配置の都合もあるが、可能な限り希望に沿うように努めている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝と昼の食事は職員のメニューで賄っているため、リクエストに対応は可能となっている		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	23	57	<p>○ 入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		<p>原則的な時間に普通は入浴をおこなっているが、希望によっては、適宜に、入浴してもらっている場合もある。</p>

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

	24	59	<p>○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		<p>アセスメント記録や、ご本人の気持ちも聞きながら、支援内容を適宜変更しながら行っている。</p>
	25	61	<p>○ 日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりの、その日の希望にそって戸外に出かけられるよう支援している</p>		<p>天気の良い日には、積極的に散歩に誘い出して実施している。</p>

(4) 安心と安全を支える支援

	26	66	<p>○ 鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中、玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		<p>ホームは建物の2階にあり、道路側の玄関から、すぐ急な階段となっており、2階ホームの玄関は、下からの階段の直ぐ横にある。1, 2階の鍵は、現状の建物では安全上と、防犯上を考慮し、やむを得ない</p>
	27	71	<p>○ 災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		<p>火災時の避難訓練は行われているが、今後の課題として、大規模災害についても対処を検討予定となっている。</p>

(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援

	28	77	<p>○ 栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		<p>食事と水分摂取量は、各人毎に見守られている。職員は情報を共有して介護に当たっている。</p>
--	----	----	---	--	---

2 その人らしい暮らしを支える生活習慣づくり

(1) 居心地のよい環境づくり

	29	81	<p>○ 居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		<p>共用空間は照明、空調は快適に過ごせるように配慮されている。食事時には音楽が流されていた。利用者さんは、それぞれ自由に過ごしている。</p>
	30	83	<p>○ 居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		<p>居室は各自が自由に家財を入れて過ごしている。利用者さんの表情は明るかった。</p>